

提出日 令和2年5月21日

氏名 森 りえ

研修報告書

以下のとおり研修の報告をいたします。

- 1 所属会派名 参加者名
日本共産党都城市議団 森りえ 畑中ゆう子
- 2 研修名
棚田第Ⅰ遺跡発掘調査現地説明会
- 3 受講場所
都城市高城町桜木（からみだ）Ⅰ遺跡

- 4 受講期間
令和2年4月21日

- 5 研修内容

目的

棚田第Ⅰ遺跡遺構を見学し、文化財課から説明を受けることによって、古代から近世にわたる高城地域の都城盆地での役割、また、遺跡保存の方法や埋蔵文化財の活用について研修を行う。

棚田遺跡



棚田遺跡は花ノ木川が氾濫し、鰐塚山系の肥沃な土砂が堆積している場所である。

この遺跡は9世紀後半ごろの前のもので、堆積している地層にはその前後7～800年の間に大きな土石流災害が起きたことがわかる。





竪穴建物跡

炭が検出された



畦畔跡

出土品（土師器・須恵器など）



竪穴建物跡から出土した土鍾

遠隔地から持ってきたと思われる灰釉陶器



鉄器（刀子）



黒色土器



丹塗りの土器

6 研修の感想

都城インター工業団地桜木地区の造成が行われるため発掘調査が行われたものである。

令和2年4月末までには発掘調査が終わり公開される予定だったが、新型コロナウイルス拡大予防のため、公開が控えられた。

現地は日向国府から大隅国府へ向かう西海道駅路が近くを通ると推定されている場所の近くで見つかっている。

律令制度の税である「租庸調」の「租」として米を日向国府に収めていたと考えられる。

日向国府跡は現在の西都市にあるが高城からどういう経路を通過して西都まで運んでいたのかを

考えると、延喜式に登場する「島津釋」の確定につながるかもしれない。

大淀川が近い隣接している地域からは出土していないとのことだった。

発掘調査後に出土品も含めた調査報告が作成されるが、報告書が出された後、歴史資料館でぜひ展示してもらおうとともに、高城地域の小中学校や、住民に対して公開してほしい。

7 研修の成果及び市政への反映

令制につながる遺跡であることや、灰釉陶器といった高城では作られていないものが出土したことを考えると、丁寧な分析と報告を行うとともに、都城歴史資料館での展示や高城郷土資料館にも展示することで、高城地域の重要性を再確認できるとよい。